

第47回杏林医学会総会・事務総会

開催日：平成30年11月17日（土曜日）

会場：杏林大学医学部学生講義棟・第二講堂（B会場）

12：00－13：00

式次第

1. 開会の辞
2. 平成29年度事業報告・平成30年度中間報告
3. 平成29年度決算報告
4. 平成29年度監査報告
5. 平成31年度事業予定・平成31年度予算案
6. 第7回学生リサーチ賞・トラベルアワード授与式
7. 第7回研究奨励賞授与式
8. 第3回杏林医学会誌優秀論文賞授与式
9. 一般口演優秀賞・準優秀賞発表
10. 閉会の辞

第一講堂 (A 会場)						第二講堂 (B 会場)						
時間	内容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁	時間	内容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁	
						9:55-10:00	開会挨拶 (集会幹事/第一内科学 滝澤 始 教授)					
10:00-10:10	一般口演	座長： 森 秀明 コメンテーター： 川村 直弘 (第三内科学・消化器内科)	A-1	中島 裕美 (第一内科学・呼吸器)	P11	10:00-10:15	平成 29 年度 保健学部共同研究・個人研究奨励 賞報告	座長： 島田 厚良 (保・臨床検査技術学科) 山田 賢治 (保・救急救命学科)	B-1	小林 治 (臨床検査技術学科)	P18	
10:10-10:20			A-2	山本 陣 (第一内科学・腎臓)	P12				10:15-10:30	B-2	島田 厚良 (臨床検査技術学科)	P19
10:20-10:30			A-3	生田 真麻 (小児科学)	P12					B-3	須田 健二 (臨床工学科)	P19
10:30-10:40			A-4	曲 継超 (外科学・消化器一般)	P13				10:30-10:45	B-4	宮方 基行 (救急救命学科)	P20
10:40-10:50			A-5	福田のぞみ (第一内科学・呼吸器)	P13							
10:50-11:00	休憩					10:45-11:00						
11:00-11:10	一般口演	座長： 吉田 正雄 コメンテーター： 櫻井 拓也 (衛生学 公衆衛生学)	A-6	渡邊 雅慧 (小児科学)	P14	11:00-11:15	11:30-12:00	休憩	B-5	新江 賢 (臨床検査技術学科)	P20	
11:10-11:20			A-7	春日 啓介 (第一内科学・呼吸器)	P15				11:15-11:30	B-6	上田真樹子 (臨床検査技術学科)	P21
11:20-11:30			A-8	山岸 夢希 (脳神経外科学)	P15							
11:30-11:40			A-9	市川 洋平 (心臓血管外科学)	P16							
11:40-11:50			A-10	大村 章太 (泌尿器科学)	P16							
11:50-12:00			A-11	高畑 賢 (整形外科科学)	P17							
						12:00-13:00	事務総会・表彰式					
大学院講堂 (市民公開講演会)												
13:00	開場											
13:30-15:20	市民公開講演会 「脈のはなし 速い脈と遅い脈」											

第三講堂（C会場）						第四講堂（D会場）					
時間	内容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁	時間	内容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁
10:00-10:10	一般口演	座長： 小林 啓一 コメンテーター： 鳥居 正剛 (脳神経 外科学)	C-1	長堀 克哉 (眼科学)	P22	10:00-10:10	一般口演	座長： 石井 晴之 コメンテーター： 皿谷 健 (第一内科 学・呼吸器)	D-1	朽名 貴史 (外科学・消化器一般)	P29
10:10-10:20			C-2	柿沼 恵 (総合研修センター)	P23	10:10-10:20			D-2	根本 展希 (医学部4年)	P30
10:20-10:30			C-3	野口 健朗 (産科婦人科学)	P23	10:20-10:30			D-3	田邊 真希 (脳卒中医学)	P30
10:30-10:40			C-4	宮岡 智花 (第一内科学・呼吸器)	P24	10:30-10:40			D-4	青木 孝司 (皮膚科学)	P31
10:40-10:50			C-5	横田 泰佑 (麻酔科学)	P24	10:40-10:50			D-5	奥田 俊 (放射線医学)	P31
10:50-11:00	休憩					10:50-11:00	休憩				
11:00-11:10	一般口演	座長： 大木 紫 コメンテーター： 八木 淳一 (統合 生理学)	C-6	恩田 智子 (第三内科学・糖内代)	P25	11:00-11:10	一般口演	座長： 中野 尚子 コメンテーター： 八並 光信 (保・理学 療法学科)	D-6	高見澤悠平 (整形外科)	P32
11:10-11:20			C-7	Khairul Idzam Bin Muslim (麻酔科学)	P26	11:10-11:20			D-7	中島正太郎 (総合研修センター)	P33
11:20-11:30			C-8	三倉 直 (第一内科学・呼吸器)	P26	11:20-11:30			D-8	高篠 智 (法医学/解剖学)	P33
11:30-11:40			C-9	岡崎 太一 (総合研修センター)	P27	11:30-11:40			D-9	白土 健 (衛生学公衆衛生学)	P34
11:40-11:50			C-10	相原 圭太 (保・理学療法学科)	P27	11:40-11:50			D-10	齊藤 正興 (第一内科学・呼吸器)	P34
11:50-12:00			C-11	関 雅史 (第二内科学・血液)	P28						

※一般口演：1演題 10分
保健学部研究報告：1演題 15分

受賞者一覧

第3回杏林医学会誌優秀論文賞

- 森 数美（保健学部救急救命学科）
論文タイトル：単極性うつ病における臨床症状と局所脳血流量との関連 杏林医学会雑誌
48巻4号p.119-127掲載, 2017.

第7回研究奨励賞

- 新倉 保（感染症学）：IFNGR1 signaling is associated with adverse pregnancy outcomes during infection with malaria parasites. PLoS One 12(11):e0185392, 2017.
- 牧山智彦（生化学）： γ -Taxilin temporally regulates centrosome disjunction in a Nek2A-dependent manner. Experimental Cell Research 362(2):412-423, 2018.
- 樋口 聡（第二内科学）：Visceral-to-subcutaneous fat ratio is independently related to small and large cerebrovascular lesions even in healthy subjects. Atherosclerosis 259:41-45, 2017.
- 渡辺邦太郎（麻酔科学）：Postoperative analgesia comparing levobupivacaine and ropivacaine for brachial plexus block:A randomized prospective trial. Medicine 96(12):e6457, 2017.
- 安藤良将（眼科学）：Vitreotomy and scleral imbrication in patients with myopic traction maculopathy and macular hole retinal detachment. Graefes Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology 255(4):673-680, 2017.
- 白土 健（衛生学公衆衛生学）：Regular voluntary exercise potentiates interleukin-1 β and interleukin-18 secretion by increasing caspase-1 expression in murine macrophages. Mediators of Inflammation 2017:9290416, 2017.
- 笠倉奈津子（耳鼻咽喉科学）：WFS1 and GJB2 mutations in patients with bilateral low-frequency sensorineural hearing loss. The Laryngoscope 127(9):E324-E329, 2017.
- 李 政勲（脳神経外科学）：Prognostic factors for primary central nervous system lymphomas treated with high-dose methotrexate-based chemo-radiotherapy. Japanese Journal of Clinical Oncology 47(10):925-934, 2017.

第7回学生リサーチ賞（平成29年度） 学年は決定時

- 「地域と大学」Cグループ 内田真聖, 太田裕美, 坂口未希子, 志村亮輔, 高野洋, 中村真悠子, 馬目潤, 山口悠太（医学部1年） 推薦者：赤木美智男教授（医・医学教育学）
- 落合愛純, 數井伶奈, 佐瀬史佳, 澤村陽香（保健学部4年） 推薦者：宮澤博教授（保・臨床検査技術学科）
- 日坂春香, 中村祐紀, 卯之原美津妃（保健学部4年） 推薦者：中島恵美子教授（保・看護学科）
- 廣瀬勇人（保健学部4年） 推薦者：山本智朗教授（保・診療放射線技術学科）
- 石井直樹（医学部5年） 推薦者：遠藤英仁准教授（医・心臓血管外科学）
- 大坪栞奈（保健学部4年） 推薦者：照屋浩司教授, 平澤愛講師（保・健康福祉学科）
- 余川絢音（保健学部4年） 推薦者：中島章夫准教授（保・臨床工学科）

第7回学生トラベルアワード（平成29年度）

なし

平成30年度杏林医学会 市民公開講演会

脈のはなし 速い脈と遅い脈

平成30年11月17日（土曜日）13：30～15：20（開場 13：00）

杏林大学三鷹キャンパス 第2病棟4階 大学院講堂

プログラム

司会： 副島 京子 先生

杏林大学医学部 第二内科学 教授

特別講演

13：35-13：55 脈を知ることの大切さ 自己検脈でわかること

演者： 副島 京子 先生

杏林大学医学部 第二内科学 教授

特別講演

13：55-14：35 脈が遅くなったら：リードスペースメカによる治療

演者： 佐藤 俊明 先生

杏林大学医学部 第二内科学 特任准教授

特別講演

14：35-15：15 速い脈のはなし

演者： 上田 明子 先生

杏林大学医学部 第二内科学 特任講師

脈のはなし：速い脈と遅い脈

杏林大学医学部 第二内科学（循環器内科） 教授
副島 京子 先生

心臓は1日に約10万回拍動しています。その拍動が血管に伝わり手首などで触れるのが脈拍です。速い脈（頻脈）の代表的なものが心房細動です。その早期発見により脳梗塞を未然に防ぎ、カテーテルやバルーンを用いた根治のための治療が行われています。遅い脈に対する治療は、昨年よりカプセル型のリードレスペースメーカーが使用できるようになり、患者さんの負担が非常に軽減されています。自己検脈の方法とこれらの最新治療についてお話ししたいと思います。

脈が遅くなったら：リードレスペースメーカーによる治療

杏林大学医学部 第二内科学（循環器内科） 特任准教授
佐藤 俊明 先生

リードレスペースメーカーは、容量 0.8ml、重さ 2.0g のカプセル型ペースメーカーです。

従来から行われてきたペースメーカーの植込み手術では、リードとよばれる電線を肩のつけねにある血管から心臓の内面まですすめるとともに、電池本体を胸の皮膚の下(ポケット)へ留置する必要がありました。リードレスペースメーカーは、太ももの付け根にある静脈から専用の長い管(カテーテル)をもちいて、心臓のなかに挿入されます。

リードレスペースメーカーの先端と胴体には電極がついており、心臓の「脈」をたえず見張っています。もしも脈が遅くなれば、心臓を電気で刺激し、拍動させます。

リードレスペースメーカーによる治療では、リードの植込みや留置、電池ポケットに関連する問題はおこりません。さらに胸の静脈が詰まっていたり、血液透析による治療をうけていても、リードレスペースメーカーの植込みは制限されません。術後、胸元には切傷や、電池による膨らみは残りません。植込み手技時間が短いことも長所のひとつです。

杏林大学病院では、2014年に日本で初めてリードレスペースメーカーの植込みがおこなわれました。以後、大きな合併症もなく、植込みは現在も行われています。



速い脈のはなし

杏林大学医学部 第二内科学（循環器内科） 特任講師
上田 明子 先生

脈が速くなる、あるいは乱れる不整脈の代表例が“心房細動”です。60歳以上人口の7-8%、80歳以上の10%にみられ、高齢化社会において今後さらに増加すると考えられています。症状は様々で、強い動悸ですぐに来院される方がいる一方、全く気付かず何年も経過される方もいます。心房細動は、①動悸や息苦しさといった症状、②心機能を低下させる可能性、③血栓症を来す、といった問題を引き起こします。また近年、死亡率の増加、QOLの低下、認知機能の低下にも関与するという報告が増えています。

心房細動の治療には2つの大きな柱があります。一つは血栓を予防する“抗凝固療法”です。心房細動は症状の有無に関わらず心臓内に血栓を形成することがあり、これにより脳梗塞を発症することがあります。脳梗塞の実に3割は心房細動が原因とされており、特に重大な後遺症を残す広範囲な脳梗塞を来しやすいと言われていています。残念ながら脳梗塞を発症してから心房細動が発見されることも少なくありません。積極的に脈のチェックをする、健康診断などの機会を逃さず心電図検査を受けることで、心房細動が早期に発見されれば、血栓症を発症する前に血液の凝固を抑制する薬剤を開始し予防が可能となります。

一方、冒頭で述べた心機能の低下、認知機能の悪化といった問題の抑制には、心房細動という脈の乱れ自体の治療、つまり正常の脈に戻し、維持する治療が必要です。これが心房細動治療のもう1つの柱です。抗不整脈という脈を整える薬物療法とならび、現在主流となっているのがカテーテルアブレーション治療です。細いカテーテルの先端から高周波などのエネルギーを用い熱を発生させ、心房細動の起源となる左心房 - 肺静脈の心筋を焼灼する治療法です。焼灼部位、カテーテルの種類、カテーテル操作を容易にするマッピングと呼ばれる装置など、この20年で本治療は飛躍的に発展を遂げており、治療成績も良好なものとなっています。

本講演では、心房細動の早期発見の手がかり、診断・治療の流れから、最新のカテーテル治療まで具体的にご紹介していきます。

演 者 紹 介

●副島 京子（専門：循環器内科 不整脈）

【講師経歴】

杏林大学医学部第二内科学（循環器内科）教室 教授。

1989年慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学病院内科、救急部を経て1998年より米国Harvard大学医学部、Brigham and Women's Hospital循環器内科に留学。電気生理学fellowship終了後、同医学部にて2004年7月まで勤務。帰国後は慶應義塾大学病院心臓病先進治療学講座講師、Miami大学循環器准教授、聖マリアンナ医科大学循環器科講師、川崎市立多摩病院を経て、2018年より現職。

●佐藤 俊明（専門：循環器内科 不整脈、心臓植込みデバイス）

【講師経歴】

杏林大学医学部不整脈先進治療学研究講座 特任准教授。

1992年慶應義塾大学卒業。慶應義塾大学医学部内科学教室、平塚市民病院内科、亀田総合病院内科、慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科、東京歯科大学市川総合病院循環器科を経て、2001年より米国のインディアナ大学、カリフォルニア大学に留学。帰国後は慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科講師を経て、2016年より現職。

●上田 明子（専門：循環器内科 不整脈, カテーテルアブレーション）

【講師経歴】

杏林大学医学部不整脈先進治療研究学講座 特任講師。

2000年岡山大学医学部医学科卒業。神戸市立中央市民病院内科、田附興風会医学研究所北野病院内科、東京都立広尾病院循環器科勤務。2011年英国ロイヤルブロンプトン病院留学。2012年帰国後より杏林大学医学部循環器内科任期制助教。2016年より現職。